

# 同志社草創期はどのような時代であったのか ― 新島襄の挑戦

連続シンポジウム「同志社 150 年の歴史から展望する未来への挑戦」の第2回目として、今回は「同志社創立（1875～1890）」に焦点を当てます。同志社草創期がどのような時代であったのかを、同時代史の中に位置づけ、また、その時代の中で、新島襄はどのような挑戦をしたのかについて、共に考えていきたいと思えます。

● 日時：2024 年 **6** 月 **3** 日（月）17:00～19:00

● 場所：同志社大学 今出川キャンパス同志社礼拝堂

& Zoom ウェビナー

● 講演：

**沖田行司**（同志社大学名誉教授、びわこ学院大学学長）

● 司会：小原克博（同志社大学学長、良心学研究センター長）

● コメンテーター：

澤田瞳子（小説家、同志社大学 客員教授）

玉井史絵（同志社大学副学長）



■ 問い合わせ 同志社大学 良心学研究センター **CONSCIENCE**

E-mail : rc-csc@mail.doshisha.ac.jp <http://ryoshin.doshisha.ac.jp>

良心を世界に―良心を覚醒させる知の連携と知の実践

## 講師略歴

### 沖田 行司（おきた・ゆくじ）

1948年京都府生まれ。びわこ学院大学学長 同志社大学 名誉教授。専門：日本思想史・日本教育文化史。博士（文化史学）論博。

1979年3月、同志社大学大学院文学研究科文化史学専攻博士後期課程満期退学。1979年4月、同志社大学文学部助手、専任講師、助教授を経て、1990年4月に文学部教授となり、改組転換で2005年に社会学部教授。ハワイ大学日本研究所客員研究員（1989～1990）、中国人民大学客座教授（2003～2013）。2019年3月、同志社大学を定年退職。この間、国際センター所長・社会学部長・同志社大学体育会長・同志社大学ラグビー部長を歴任。

単著：『日本国民をつくった教育：寺子屋からGHQの占領教育政策まで』2017年、ミネルヴァ書房。『日本人をつくった教育』2000年、大巧社。『新訂版 日本近代教育の思想史研究』2007年、学術出版会。『藩校・私塾の思想と教育』2011年、日本武道館。編著：『教育社会史』（新体系日本史16）2002年、山川出版。『人物で見る日本の教育』2012年、ミネルヴァ書房。共著：『応用倫理学講義 6 教育』2005年、岩波書店。『近代東アジアの経済倫理とその実践』2009年、日本経済評論社。『横井小楠：公共する人間』2010年、東京大学出版。『正義とは』2012年、岩波書店。『知るとは』2012年、岩波書店。『横井小楠―道は用に就くも是ならず』2021年、ミネルヴァ書房。その他共著書・論文多数。

同志社草創期はどのような時代であったのか

## 新島襄の挑戦

沖田行司

## 近代への胎動

- ・「学制」を頒布 1872 (M5)
  - ・啓蒙団体「明六社」の結成 1873 (M6) ⇨ 文明開化
  - ・「民撰議院設立の建白」の提出 1874 (M7)
  - ↓
  - 民権結社と教育⇨自由民権運動の台頭と私立学校の創設
  - ・「明治14年の政変」を契機に私立学校の抑止政策
  - ・徴兵令の改正⇨官公立学校の優位性を保障
  - ・学校令の制定⇨帝国大学を中心に学校体系の整備1886 (M19)
  - ・新島襄永眠 (1890年1月)
  - ・教育勅語 (1890年10月) ・大日本帝国議会 (同年11月)
- 1 / 24

## 京都の文化復興策と同志社の創設

- ・1863 (文久3) 山本覚馬、西洞院長者町に洋学塾を開く
  - ・1868 (M1) 山本覚馬、薩摩藩邸に幽閉中に『管見』を提出
  - ・1869 (M2) 東京奠都⇨京都の衰退
  - ・町組改正と熊谷直孝が番組小学校を推進
  - ・山本覚馬、京都府顧問に就任⇨榎村正直のプレーン
  - ・1870 (M3) 榎村正直の近代化政策「京都府施政の大綱に関する建言書」
  - ・1871 (M4) 西本願寺で京都博覧会
  - ・1872 (M5) 第一回京都博覧会
- 2 / 24

## 新島襄の学校創設計画

- ・1874 (M7) 11月に帰国
  - ・木戸孝允の協力とゴードン牧師・グリーン牧師の援助を得て  
**大阪**に学校創設を計画
  - ・アメリカン・ボードは「日本人伝道者を教育するための神学的な養成所」にのみ寄金を提供
  - ・新島襄は日本の若者にキリスト教と同時に近代科学を学ばせる大学を構想
- 3 / 24

## 大阪での学校創設を断念

- 大阪府権知事渡辺昇は宣教師の教員雇用に反対  
(渡辺昇は長崎でキリスト教徒を迫害)
- この頃の日本の教育状況  
「学制」で全国で小学校の創設が広がる  
文部省調査⇒官立・私立の中学校と外国語学校は106校  
↓  
官立=10校 私学=96校

4/24

## 京都における学校創設計画

- 木戸孝允の京都訪問  
榎村の提案(「京都府施政の大綱に関する建言書」)で1870(M3)に開設された**欧学舎**(ドイツ語・フランス語・英語)を見学
- 京都の博覧会見物に新島は京都を訪問  
(博覧会中は外国人の訪問を許可)
- 1875(M8) 新島は木戸孝允の紹介で榎村正直と会談、さらに榎村の紹介で山本覚馬とも交流。  
(山本覚馬は宣教師のゴードンから『**天道溯源**』を贈られキリスト教に関心を深める)

5/24

## 同志社英学校の創設とアメリカン・ボード

- 1875年(M8)6月 新島はデイヴィスと山本覚馬を訪問
- 田中不二麿文部大輔が京都に来て新島と面会し、文部省に招聘の説得にあたる⇒「新島君さらば、ぼくはもう帰る。君は本当にヤソの奴隷じゃ」
- 新島は**平民の身分に転籍**して私塾開業願を提出
- 「官許同志社英学校」の誕生⇒聖書講義の禁止が条件
- 寄付金の使用にはアメリカン・ボード宣教師団の合意が必要
- 京都で排耶運動が高まる⇒榎村の態度が変化

6/24

## 同志社英学校創設期の日本の教育状況

- 「学制」の計画
- 全国に8校の大学、一大学区に32に中学区(256校の中学校)、一中学区に210の小学校(53760の小学校)
- 1874(M7)1月の文部省調査  
全国に官立学校及び私立中学校、外国語学校の総数は106校でこの内官立は10校で残りの96校は私立
- 1875(M8)  
小学校24303校、中学校26校、大学0(1877に東京大学)

7/24

## 自由民権運動と私立学校

- 1878 (M11) 文部省調査によると中等教育機関は579校  
官立 (65校) ・私学 (514校) ⇨ 全体の88%
- 1879 (M12) 政府内部での対立
  - ・ 天皇親政を求める元田永孚らは「**教学聖旨**」を天皇に示す
  - ・ 伊藤博文らの開明官僚は「**教育議**」で反論
  - ・ 伊藤らは**侍補制**を廃止して天皇側近派の台頭を抑える
  - ・ 田中不二麿は「学制」を廃止して「教育令」を發布
- ・ 地方長官から「私学条例」の制定を促す嘆願書が寄せられる

8/24

## 同志社における智徳論争

- ・ バイブルクラスの「同心交社」内での対立
- ・ 神学生はキリスト教信仰による徳育を重視
- ・ 徳富蘇峰・大久保新次郎・元良勇次郎らは知育を重視
  - ⇨ 宣教師や神学生に反感⇨キリスト教信仰から離れる
- ・ 蘇峰らは陽明学者村上作夫の「**教蘆社**」に出入り
- ・ 蘇峰は田中村の水車小屋の二階を借り漢学の学習会を主宰  
「同志社における異分子の一の倶楽部」 (『蘇峰自伝』)
- ・ 新島八重が「裏も徳富さんは近頃余程攘夷熱が昂って来た様だと申して居った」 (同上) と発言

9/24

## 蘇峰と新島の良心論

- ・ 蘇峰はキリスト教信仰と教会から離れる。
- ・ 新島が最も否定した儒教の私塾に蘇峰が出入りしたことの意味。
- ・ 日本の陽明学者は『孟子』の**良心論**を重視
- ・ 儒教の良心論は江戸時代に庶民に広く受容された道徳原理
- ・ 新島の蘇峰への手紙  
「生のごときは日暮れて、克く驚馬千里を駆くる能わずといえども、**ただただ我が良心を真理に照準して使用し、**天より賦与する所の力を尽くして、一生を終わらんと欲するのみ」 10/24

## 蘇峰の良心論

- ・ 蘇峰が尊敬する熊本藩士横井小楠は1868年 (明治元) 9月に岩倉具視の依頼を受けて明治天皇に「中興の立志七條」を献言。  
「習気を去らざれば**良心**滅ぶ」「戦争の惨憺万民の疲弊、之を思ひ亦思ひ、更に見聞に求れば、自然に**良心**を発すべし」良心教育を提言
- ・ 明治天皇に宛てた遺言⇨「遺表」に「**人の良心は道の本なり**」
- ・ 蘇峰の父の徳富一敬は小楠の高弟で、「遺表」は小楠の娘婿の海老名弾正が保管。後に蘇峰自身は「良心教育」は自分が作った言葉と述懐し、海老名弾正も良心教育は新島の言葉でないと証言 (「同志社新報」1964)

11/24

## 官学と私学

- 1879 (M12) 徴兵令の改正 ⇨徴兵猶予条件を官学に限定
  - 「今の令により考れば、私塾の勢力を断ち、益々官校を盛ならしむるが如し」 (「紀行」明治12年)
- 「如何なる人物が官校より出来しや (官吏のみ)、官校に於いて卒業せし者が降て民間にあり、人民の位置を進めんと計る者幾人ぞある」 (同上)

12/24

## 自由主義教育から統制主義教育へ

- 1880 (M13) 教育令改正⇨啓蒙主義の終焉
  - 修身を教科の首位に置く
  - 教科書取調掛の設置
- 1881 (M14)
  - 小学校教員心得⇨儒教道德と愛国心の培養
  - 中学校教則大綱の制定⇨中等教育の標準化
  - 私立中学校の激減

13/24

## 新島襄と自由民権運動

- 地方に民衆の自治の下に開設される「義塾」の創設を推奨  
「自由民権の養成所は此のコレジにあり、此の義塾なくんば如何にして勢力を養(ひ)得べきぞ」(「地方教育論」1882)
- 1882 (M14) 山城田辺に南山義塾・大住に愛民義塾が創設。新島は「有志諸君の篇志より此美挙あり」とメッセージを送る  
「今の教師多くは人物を養成するを以て其目的とせず、月給の多少により其所を移し月給を貪り、いささか己の淫欲を逞しくする」(「祝言」)

14/24

## 新島の自由民権と道德

- 「民権を拡張し、人民をして自由を得せしめば、道德の教えたたざれば自由を得るも又之を我儘に用いる憂いあり…貴重の民権を下して下等の我儘と混んずるの憂あれば、国の幸福期し難い」(「愛人論」年代不詳)
- 自由の暴走を止めるためにもキリスト教道德が不可欠
- ↓
- この頃、板垣退助にキリスト教への入信を勧誘

15/24

## 新島の自由民権運動批判

- 「**無神論者の説**の如き益々勢力を逞し、一派の学風を惹起」
- 「我東洋をして不知々々 **西洋社会党虚無党の轍を踏ましむる**」
- 「**長者をしのぎ定律を嫌ひ**道理と称して其の実豪も道理にあらず」
- 「**破壊主義に流れ稍もすれば政府に抵抗し転覆す**」
- 「今之か銚を挫くの策を立てされば、他日我東洋に**第二の仏国革命**を画き出すも計り知るべからず」  
(「条約改正を促すの策」 年代不詳)

16/24

## 1883 (M16) 「徴兵令改正」と同志社

- 150人中40人が帰省。  
「今よりは正良の私塾は倒れ、有名無実の官公立校多く出でん、好し我が同志社は仮令生徒悉く去るも、依然として此の相国寺門前に建て置くべし」 (「池袋清風日記」 明治17年)

↓

新島の大学設立運動はこうした厳しい状況下で展開

17/24

## 新島の大学設立運動

- 1884 (M17) 1月 同志社大学設立の仮発起人会
- 文学部 (歴史・哲学・政事・経済)
- 「明治専門学校設立趣意」  
「東洋不振は**自由と基督教の道德なきに因由する**なり…」  
「**智徳併進の主義**に基づき諸学科を専修せしむる事」  
↓  
「**永世不易の原則とす**」

18/24

## 「学校令」と同志社大学設立運動

- 1886 (M19) 初代文部大臣森有礼が学校体系を整備
- 小学校令・中学校令 (尋常・高等)・帝国大学令・師範学校令
- 1877年に設立された東京大学⇨帝国大学
- 1897 (M30) 京都帝国大学と東京帝国大学

↓

**官立優先型の学校体系が確立**

新島は「明治専門学校」の設立に奔走、1888 (M21) 蘇峰の提案で「同志社大学」の設立と名称を変更

19/24

## 明治専門学校から同志社大学

- 「明治専門学校の名よりも一層明快に同志社大学と致し候可然と存居候」（「新島宛徳富蘇峰書簡」明治21年3月）
- 同志社社員会で明治専門学校を同志社大学と改称、徳富蘇峰を社員に加えることを決定。（1888年9月M21）
- 新島は徳富蘇峰に同志社大学設立主意書の起草を託す（1888年10月）
- 1888年（M21）11月「同志社大学設立の旨意」を発表  
「基督教主義を以て徳育の基本と為せり、吾人が世の教育家と其趣を異にしたるも茲に在り」

20/24

## 同志社教育の二つの柱

- 所謂良心を手腕に運用するの人物を出さんことを勉めたりき  
蘇峰は3年前に著した「第十九世紀日本の青年及び教育」（後に『新日本之青年』）で平民主義による社会改革を主張し、イギリスの社会革命家オリバー・クロムエルを高く評価（「クロムエルが所謂良心を手腕に運用するが如き平民の出現を期待」）
- 唯上帝を信じ真理を愛し人情を教くする基督教の道徳に存することを信じ基督教主義を以て徳育の基本と為せり
- 新島の基督教主義道徳と蘇峰の良心を手腕にした平民主義  
1940年に軍部の圧力に屈する⇒良心碑を建立－良心教育

21/24

## 専門学校令による同志社大学

- 1903（M36）専門学校令を発令
- 入学資格⇒旧制中学校若しくは高等女学校の卒業
- 専門学校には予科・研究科・別科を設置できる
- 私学の多くは「専門学校令による大学」と校名を使用

↓

1918年（T7）に「大学令」が発令  
1920年（T9）に大学令による同志社大学

22/24

## 新島襄の憂鬱

- 1885（M18）同志社女学校の運営をめぐり、新島八重親子と外国人宣教師の対立
- アメリカン・ボードは女性宣教師を引き揚げさせ同志社女学校の廃止に踏み切る

↓

（日本人によって再興）

- 教会合同問題⇒自由教育自治教会を主張する新島は反対
- 小崎弘道や海老名弾正らは新島と対立する

23/24

## 新島襄の遺言⇔同志社教育の原点

- 同志社教育の目的は、その進学・政治・文学・化学等に従事するにかかわらず、**真誠の自由を愛し**、もって邦家に尽くすべき**人物を養成**するを務べき事。
- 社員たるものは**生徒を鄭重にとり扱う**べきこと。
- 同志社においては、**倜儻不羈なる書生を圧束せず**、努めてその本性に従ひ、これを順導し、もって天下の人物を養成すべき事。
- 同志社は隆なるに従ひ、**機械的に流るるの恐れ**あり、切に之を戒慎すべき事。

24/24

## 新島襄の終焉

- 1890 (M23) 1月21日から22日未明、新島襄は神奈川県大磯の旅館で危篤状態に陥り、妻八重・小崎弘道・徳富蘇峰らが見守る中、同志社の将来にわたって守るべき遺言を残して天に召された。

同年10月に「教育に関する勅語」（教育勅語）が天皇の名にもとに下付され、翌11月には大日本帝国憲法が發布され、新島襄が描いた近代国家と国民教育とは異なる方向へと歴史は展開して行き、同志社は受難の歴史を歩むことになる。

ご清聴ありがとうございました

またお会いできることを楽しみにしています

## ■公開シンポジウム「新島襄没後の同志社の混乱と発展——志を継ぐ者たちの奮闘」

（連続シンポジウム「同志社 150 年の歴史から展望する未来への挑戦」第 3 回）

日時：9 月 24 日（火）17:00～19:00

場所：同志社大学 今出川キャンパス 良心館 RY103（予定） & Zoom ウェビナー

講師：木原活信（同志社大学 副学長、社会学部教授）

和田喜彦（キリスト教文化センター所長、経済学部教授）

司会：小原克博（同志社大学 学長、良心学研究センター長、神学部教授）

コメンテーター：

金津和美（国際教養教育院所長、文学部教授）

小林丈広（同志社社史資料センター所長、文学部教授）

詳細は、<https://ryoshin.doshisha.ac.jp/jp/activity/20240924/>

## ■良心学研究センターの刊行物

『良心を考えるために』2017 年、増補改訂版 2018 年。

『良心学入門』岩波書店、2018 年（本体 1,500 円＋税）。

『新島襄 365』2019 年（Amazon Kindle 版あり）。

『良心から科学を考える——パンデミック時代への視座』岩波書店、2021 年（本体 1,600 円＋税）。

『パンデミック時代における良心』2021 年（Amazon Kindle 版あり）。

『同志社精神を考えるために』2023 年（Amazon Kindle 版あり）。

*Joseph Hardy Neesima and the Doshisha Spirit*, 2023.